

高等学校における 校内支援体制の充実に関する研究

—特別な支援を必要とする生徒を含む集団への多層的な支援を通して—

《補助資料目次》

【補助資料1】	先行実践で使用した学習指導案（A校）	1
【補助資料2】	授業で使用したプリント（A校）	4
【補助資料3】	先行実践で使用した学習指導案（B校）	5
【補助資料4】	授業で使用したプリント（B校）	9
【補助資料5】	先行実践で使用した学習指導案（C校）	10
【補助資料6】	授業で使用したワークシート（C校）	14
【補助資料7】	第1回校内委員会で使用したスライド資料	15
【補助資料8】	授業研究会兼第2回校内委員会で使用したスライド資料	20

令和7年3月
岩手県立総合教育センター
教育支援相談担当
米沢 友夏

【補助資料1】先行実践で使用した学習指導案（A校）

第2学年国語科（文学国語）学習指導案（略案）

日時：令和6年9月 日（ ） 校時

対象：A高等学校

2年 組37名

- 1 科目名 文学国語
- 2 教材名 俳句を作ろう～「取り合わせ」の手法を用いて～
- 3 生徒観

生徒について	指導に当たって
<p>ア 指導対象全体について</p> <p>6月に実施した学級集団理解のための外部アンケート調査の結果では、ホームルームの傾向として以下の点が挙げられている。</p> <p>【ホームルームの傾向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲が高い集団である ・ホームルームにおけるルールや行動規範はほとんどの生徒たちに共有されており、ホームルーム内での大きなトラブルは少ないと思われる ・ホームルームにおいて、意欲的に活動できている生徒と、そうでない生徒がいる ・生徒たちが教師の評価を過度に気にしていることに留意する必要がある 	<p>ア 第1層支援としてのユニバーサルデザイン（以下、UD）の視点から</p> <p>学習意欲が高く、授業中においても、能動的に演習問題に取り組む生徒が多い。教員にペア学習を指示された際も、素早くペアを作り、互いに教え合う姿が見られる。現在、ホームルーム内に大きなトラブルは少ないと思われるが、左記のアンケート調査の分析による今後の指針として、「生徒たちが活躍できる場面や、自らの発言が認められる機会を授業やホームルーム生活に取り入れること」、「生徒同士で互いに認め合えるような取組を取り入れ、多くの生徒に注目が当たる工夫をすること」が必要であると記されている。</p> <p>以上のこと及び下記イの支援を必要とする生徒への配慮から、本時においては、以下のUDの視点を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焦点化：授業のねらいや活動を絞る ・構造化：時間や活動の見通しを示す ・視覚化：取り組むべき学習内容を明示する ・共有化：互いの考えを伝え合ったり確認したりする
<p>イ 支援を必要とする生徒について</p> <p>生徒D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、ホームルーム内で友人と話をすることを避ける様子が見られたが、今年度は、ペア学習やグループでの活動において周囲と話そうと努力している ・担任に「授業が分からないこと」、「課題を終わらせるだけになっていること」に悩んでいると話している ・昨年度は課題の提出が遅れがちであったが、今年度は、家庭での学習時間が確保できるようになったことから、期限内に課題を提出できるようになった 	<p>イ 第2層支援の視点から</p> <p>生徒D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による見守りと声掛け ・Dの注意を引き付けてから説明を行う ・授業の流れや次に行う活動を提示し、見通しを持たせる ・指示や説明を簡潔にする ・ICTを使用して視覚的な情報を加える ・Dができていない部分、取り組んでいる部分を認め、肯定的な声掛けを行う ・共有化の時間を設定し、友人から学ぶ機会を設ける

4 本時について

(1) 本時の目標

- ・「取り合わせ」の手法を用いて俳句を作り、よりよい表現になるよう工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の評価規準

- ・「書くこと」において、「取り合わせ」の手法を用いて作った俳句を作り、よりよい表現になるようグループで意見を交換している。

【「思考・判断・表現」A(1)ウ】

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 UDの視点 焦点化【焦】 共有化【共】 構造化【構】 視覚化【視】 ◆評価	第2層支援 (支援が必要な生徒への配慮)
導入 10分	1 あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の着席後、注目を促してから説明を始める 【焦】 ・4人グループで学習する場面があることを伝える 【構】 	生徒D <ul style="list-style-type: none"> ・本人の様子を観察する
	2 本時の学習課題を理解する (1) 電子黒板に提示された俳句の []に入る言葉を考える 「[]や きのうの誠 けふの嘘」 (2) 自分が考えた言葉を発表する (3) 学習課題を理解する 学習課題 「取り合わせ」の手法を用いて俳句を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・季語を表す語句が入ることを伝える ・季節については、自由に考えてよいことを伝える ・机間指導を行い、適宜、全体に向けてヒントを出す ・2、3名を指名する ・発表が終わった後、元となった俳句を紹介する 「紫陽花や きのうの誠 けふの嘘」(正岡子規) ・この句及び正岡子規について簡潔に解説する ・上記の俳句に使われている技法「取り合わせ」について、簡潔に説明してから、学習課題を電子黒板に明示する 【視】【構】 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の取組状況に応じ、肯定的な声掛けを行う ・作業が滞っている場合、対話しながら一緒に考えをまとめる
	3 授業の流れを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを電子黒板に提示する ・終了した学習内容には取り消し線を入れる ・取り組む学習内容を青い太字にして示す 【視】【構】 	生徒D <ul style="list-style-type: none"> ・こちらに注目したことを確認してから説明を始める

<p>展開 35分</p>	<p>4 俳句を作る (1) 本時において使用する俳句の表現技法を説明する (2) ワークシートに従って、俳句を作る (10分) (3) 4人グループでお互いの作品を読み合う(5分) (4) グループで一句を選び、よりよい表現への改善案を出し合い、一句を完成させる (10分) (5) 発表会を行う (5分) (6) 自分の作品を推敲する (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に注目することを促してから説明を始める 【焦】 ・使用する技法は ①季語 ②取り合わせ とする 【焦】 ・ワークシートの手順に従い、個人で俳句を作ることを指示する ・友達の作品を読み、浮かんだ情景を伝えることを指示する 【共】 ・机間指導を行い、作業が滞っている生徒を支援する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆評価【思考・判断・表現】 ワークシート</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、ヒントを出したり、肯定的な声掛けを行ったりする ・適宜、一人一台端末を使用して、季語等について検索してよいことを伝える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆評価「思考・判断・表現」 ワークシート 行動観察</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表が終わった後に拍手することを指示する ・推敲とその理由を記述することを指示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらに注目したことを確認してから説明を始める ・指示が理解できていないようであれば個別に伝える ・グループでの話合いに参加できているか観察する ・話合いに参加できていない場合、本人及びグループのメンバーに参加を促す ・本人が発表する場面に立ち合い、本人に対して肯定的な声掛けを行う
<p>終末 5分</p>	<p>5 本時の振り返りを行う 6 あいさつをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに感想を書くことを指示する 	<p>生徒D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで活動できたことをほめる

<p>文学国語 授業プリント 氏名</p>	<p>学習課題 「取り合わせ」の手法を用いて俳句を作ろう</p>	<p>◆個人 ①②③の手順に従って、俳句を作ろう！ ① 教室にあるものの中から、五音の名詞を探し、 結句に置く (結句)</p>	<p>② ①の様子や動きを描写する七音を考え、二句に置く (二句)</p>	<p>③ 【季語一覧】の中から、一つを選び、初句に置く ※五音にならない場合、切れ字「や」を使う (初句)</p>	<p>◆四人 ①②④の手順に従って、グループのベスト俳句 を作ろう！ ① 友達の作った俳句を聞く ② 浮かんだ情景を一人一言ずつ述べる ③ グループの俳句を一句選び、左に書く ④ グループで、よりよい表現を吟味し、左に書く</p>
		<p>◆全体 グループのベスト俳句を発表しよう！ ◆個人 自分の作った俳句を推敲しよう！</p>	<p>(推敲の理由)</p>		
		<p>◆「取り合わせ」の手法を用いて俳句を作った感想を書こう</p>			
		<p>チャレンジ！ 時間のある人は、あと一句、 同じ手順で作ってみよう！</p>			
		<p>【季語一覧】 ●春 風光る ふきのとう 夜桜 春休み クラス替え 潮干狩り ランドセル おぼろ月 風船 紫陽花 母の日 こいのぼり カタツムリ 梅雨空 カブトムシ 熱帯夜 扇風機 朝顔 夏祭り ●秋 台風 スズムシ コオロギ 文化祭 晩秋 神無月 渡り鳥 秋晴れ 紅葉狩り 金木犀 さつまいも ●冬 北風 オリオン座 ストーブ セーター 冬眠 山茶花 初霜 クリスマス 冬休み スケート 大雪</p>			

【補助資料3】先行実践で使用した学習指導案（B校）

第1学年国語科（言語文化）学習指導案（略案）

日時：令和6年9月 日（ ）

対象：B高等学校

1年 組24名

- 1 科目名 言語文化
- 2 教材名 訓読のきまりを復習しよう
- 3 生徒観

生徒について	指導に当たって
<p>ア 指導対象全体について</p> <p>4月に実施した学級集団に関する調査結果では、ホームルームの傾向として以下の点が挙げられている。</p> <p>【ホームルームの傾向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任感が強く自らを省みることができるが、心配しすぎたり、引っ込み思案になったりする生徒が多い集団である。学習に関しては、集団に対して基礎的な内容の定着を図り、分かったという実感を育てることが必要である。 	<p>ア 授業全体の指導の視点から</p> <p>生徒たちは、前期において、漢文を読む基礎的な事項について学び、故事成語の読解を行っている。本時においては、前期よりも長い文章を読解することになる後期の学習に向け、訓読のきまりを振り返る。その際、心配しすぎたり、引っ込み思案になったりする集団の傾向をふまえ、生徒たちが安心して授業に臨めるような工夫を行うとともに、授業内容が分かったという実感を育てたい。</p> <p>以上のことから、本時においては、以下のユニバーサルデザインの視点を取り入れることとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焦点化：授業のねらいや活動を絞る ・視覚化：視覚的な情報を加える ・構造化：時間や活動の見通しを示す ・共有化：互いの考えを伝え合ったり確認したりする
<p>イ 支援を必要とする生徒について</p> <p>生徒E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いているときは礼儀正しく、丁寧な言葉遣いができる ・自分が知っていること、関心のあることについては、大きな声で発言する ・部活動では、道具の準備や片付けを率先して行い、大きな声で友達に声を掛け、周囲を盛り上げながら活動を行っている ・授業で分からない部分があったり、ICTがうまく使えなかったりすると、カッとしたり、いらいらしたりして、ものに当たることがある ・いらいらしているときは、指導者が支援を申し出ても拒否することが多い ・やわらかいボールを握る、絵を描く、携帯を見るなど自分なりに気持ちを落ち着ける方法を試している 	<p>イ 第2層支援の視点から</p> <p>生徒E</p> <p>カッとしたりいらいらしたりすることへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間や活動の見通しを示す ・授業中に本人の取組や頑張りを認める声掛けを行う ・本人なりのクールダウンの方法を見守り、落ち着いたところで声掛けを行う ・タブレットを叩いたり、大声をあげたりする行動を取る前に本人に近付き、できている部分を認め、「一緒に考えよう」と提案する ・カッとしたり、いらいらしたりしたときの前後の行動を観察し、苛立ちの前兆や興奮の度合い、声掛けのタイミングについて、他の職員と情報共有する

4 本時について

(1) 本時の目標

- ・訓読のきまりを理解し、正しく音読ができる。【知識及び技能】

(2) 本時の評価規準

- ・訓読のきまりを理解し、レ点、一二点、上下点が含まれた漢文を正しく音読している。

【知識・技能(2)ウ】

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 UDの視点 焦点化【焦】 視覚化【視】 構造化【構】 共有化【共】 ◆評価	第2層支援 (支援が必要な生徒への配慮)
導入 10分	<p>1 あいさつをする</p> <p>2 本時の学習課題を理解する (1)「鯉の滝登り」のイラストを見る</p> <p>(2)「登竜門」の読み方と意味を発表する</p> <p>(3) 訓点を打った「登竜門」の読み方を考える</p> <p>(4) 全員で読みを確認し、音読する</p> <p>(5) 学習課題を理解する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 学習課題 訓読のきまりを復習しよう </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の着席後、注目を促してから説明を始める 【焦】 ・隣の人とペアで学習する場面があることを伝える ・イラストを用いる 【視】 ・イラストに関連する故事成語について質問する ・必要に応じてヒントを出す ・意味については、出てこないようであればこちらから説明する ・読みと意味を電子黒板に提示する 【視】 ・自分で考えた後、隣の人と話し合うことを指示する 【共】 ・白文、送り仮名、返り点、書き下し文について簡潔に説明する ・学習課題を電子黒板に提示する 【視】【構】 	<p>生徒E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の様子を観察する ・隣の人へのあいさつが難しいようであれば、次のペア学習の機会に介入する ・発言の意欲を見せた時には指名し、肯定的な声掛けを行う ・生徒Eの付近で待機し、ペア学習に消極的な場合は介入し、指導者と一緒に答えをまとめる ・介入の際は、生徒Eに視線の高さを合わせ、おだやかなトーンで話しかける
	<p>3 授業の流れを確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを電子黒板に提示する ・終了した学習内容には取り消し線を入れる ・取り組む学習内容を青い太字にして示す 【視】【構】 	

4 訓読のきまりを復習する

(1) 返り点の種類と使い方を復習する

訓読のきまり
一 その漢字の左下に注目!
二 読み順序のきまり
① 点なし(上から下)
② 点なし(左から右)
③ 点なし(下の上の字を読み、すくし点に返る)
④ 点なし(下の上の字を読み、すくし点に返る)
⑤ 点なし(下の上の字を読み、すくし点に返る)

(2) □に番号を入れる練習問題に挑戦する

学習課題
本時の流れ
一 訓読のきまりを復習しよう
二 読み順序のきまりを復習しよう
三 読み順序のきまりを復習しよう
四 少し複雑な漢文に挑戦
五 授業のまとめ

練習問題
読み順序の数字を入れよう

5 音読する

- 3つの文章において、以下の(1)～(4)を繰り返す

- 指導者の範読を聞く
- 文章の横の□に、返り点に従って数字を入れ、隣の人と読み方を確認する

学習課題
本時の流れ
一 訓読のきまりを復習しよう
二 読み順序のきまりを復習しよう
三 読み順序のきまりを復習しよう
四 少し複雑な漢文に挑戦
五 授業のまとめ

音読練習
□に読み順序の数字を入れる
繰り返し音読する

(3) 個人で音読練習する

(4) 斉読する

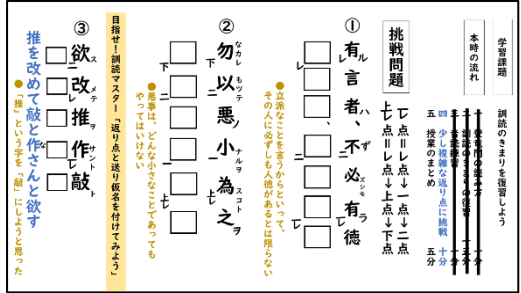
- 電子黒板に注目することを促してから説明を始める 【焦】
- 返り点の種類は
 - ①レ点
 - ②一・二点
 - ③上下点
 に絞る 【焦】

- 本人の様子を観察し、必要に応じて個別の声掛けを行う
- できている部分に焦点を当てて、本人の取組を認める
- 声掛け等の支援を拒否した場合、「何かあったら手を挙げて知らせてください」と告げる

- 電子黒板に注目を促してから範読する 【視】
- ワークシートを配付する
- 電子黒板に問題を提示する 【視】
- 隣の人と読み方を確認することを指示する 【共】
- 文章は3つに絞る 【焦】

◆【知識・技能】
行動観察
ワークシート

展開
35分

	<p>6 返り点が複雑な文章をペアで協力して読む</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の人と考えることを指示する【共】 ・「レ点、上レ点は、レ点から先に読みます」とヒントを出す ・ホームルームの様子を見て、答えを発表させるか、指導者から提示するか決める <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>◆知識・技能 ワークシート</p> </div>	
<p>終末 5分</p>	<p>7 本時の振り返りを行う</p> <p>8 あいさつをする</p>		<p>生徒E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで活動できたことをほめる

学習課題

訓読のきまりを復習しよう

一 その漢字の左下に注目!

二点なし 二点 二点 二点

二点 二点 二点 二点

二 読む順序のきまり

①点なし 二上から下に

1 2 3 4 5

②レ点 二レ点の下の字を読み、すぐレ点に戻る

1 3 2 5 4

③二点 二二点の字を飛ばし、一点が出てくるまで下に読み、一点が出てきたら二点に戻る

1 4 2 3 5

④下点 二はじめに二二点を読み、上点が出てきたら下点に戻る

1 6 4 2 3 5

音読練習

□に読む順番を入れてから音読しよう

①

良薬苦口ニ ② 挙頭望山月

③

必有得天時者

挑戦問題

レ点 二レ点 ↓ 一点 ↓ 二点
 二点 二レ点 ↓ 上点 ↓ 下点

① 有言者、不必有徳

●立派なことを言うからといって、その人に必ずしも人徳があるとは限らない

② 勿以惡小為之

●悪事は、どんな小さなことであってもやってはいけない

目指せ！訓読マスター「返り点と送り仮名を付けてみよう」

③ 欲改推作敲

推を改めて敲と作さんと欲す

●「推」という字を「敲」にしようと思った

本時の授業について、できたところにチェックを入れるよう

- レ点が理解できた
- 二点が理解できた
- 上下点が理解できた
- 返り点のきまりを理解し、正しく音読することができた
- 挑戦問題3つのうち、2つ以上正解した

【補助資料5】先行実践で使用した学習指導案（C校）

第3学年特別活動（ホームルーム活動）学習指導案

日時：令和6年9月 日（ ）

対象：C高等学校

3年 組22名

1 単元名「自分も友達も大切に作る人間関係づくり」

2 単元目標

(1) 互いを尊重し合う人間関係を築くために必要な知識や行動の仕方を身に付ける。

【知識及び技能】

(2) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだす。 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 他者の価値観や個性を受け入れ、互いの可能性を發揮できる関係を築く。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
互いを尊重し合う人間関係を築くために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。	他者の価値観や個性を受け入れ、互いの可能性を發揮できる関係を築こうとしている。

4 教材観

生徒たちは、前時において、「心とからだの健康観察」を実施しており、自分自身の心とからだの健康状態を確認し、ストレスへの対処方法及び援助希求方法を学習している。本時は、前時の「辛くなったら誰かに相談してもよい」というまとめを受け、友達と話するときや友達から相談を受けたときに、友達を尊重した声掛けができるようになることをねらいとしている。

本教材は、相手に言われてうれしくなったり、楽しくなったりする言葉である「あたたかい言葉」をかけるスキルの練習を通し、良好な人間関係を築くためには、他者を尊重した言動が必要であると学ぶことができる教材である。この教材を通して、他者を尊重した声掛けの大切さに気付かせ、他者を大切に作る態度を育てるとともに、他者に認められる体験を通して、自己の個性を理解し尊重する態度を育みたい。

5 生徒観

生徒について	指導に当たって
<p>ア 指導対象全体について</p> <p>教員の指示をよく聞き、真面目に授業に取り組む生徒が多い。また、授業中に互いに助け合う姿勢が見られ、困っている友達に自主的に答えを教える生徒もいる。</p> <p>下記の生徒F及び生徒Gに対しても、友好的に接する友人がそれぞれ複数名おり、問題を解説してあげたり、グループを作る際に声を掛けてあげたりする姿が見られている。</p>	<p>ア 第1層支援としてのユニバーサルデザイン（以下、UD）の視点から</p> <p>現在ホームルーム内に人間関係の大きな軋轢は見られないが、学級集団理解のための外部アンケートの分析によると、「学級に満足できていない生徒たちの不適応感が強く、ストレスが高まっている状態が想定される」とのことであった。</p> <p>同分析によると、今後の指針として、ホームルームへの一斉指導において、「①一つの活動を簡単なルールの下で展開する」、「②承認得点の低い生徒たちが認められる場面を設定する」などの工夫</p>

	<p>が必要であると示されている。 そこで、第1層支援として、以下5点のUDの視点を取り入れる。</p> <p>【①一つの活動を簡単なルールの下で展開する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焦点化：授業のねらいや活動を絞る ・視覚化：視覚的な情報を加える ・構造化：時間や活動の見通しを示す <p>【②承認得点の低い生徒たちが認められる場面を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有化：互いの考えを伝え合ったり確認したりする ・居心地の良いクラスづくり：互いの意見を認め合う
<p>イ 支援を必要とする生徒について</p> <p>生徒F 男子生徒。学習意欲は高く、学力面での問題は見られない。しかし、授業中に自分が気になったことや関心のあることを、脈略無く発言するため、1・2年次はからかいの対象になることが多かった。 ホームルーム内に気の合う友人が少ないと感じていることを担任や特別支援教育コーディネーターに相談している。</p> <p>生徒G 女子生徒。文学や音楽に詳しく、授業中において、関心のある分野に対する問いには積極的に反応する。その一方で、大きな声で私語をしたり、関係のない作業をしたりすることも多い。意欲がもてない課題には一切取り組まず、教員に対して否定的な態度を取ってしまうこともある。自身の感情を素直に言葉にしてしまうため、意図せずに他者を批判したり、否定したりしていることも多い。</p>	<p>イ 第2層支援としての視点から</p> <p>生徒F 不規則発言への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚化→ルールの可視化 ・構造化→話す場面・聞く場面の設定 <p>生徒G 他者への批判的な発言への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚化→ルールの可視化 <p>参加意欲が低下している場合の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の声掛け <p>生徒F及び生徒G 本人の行動理解及び他の職員との情報共有・本人の発言のきっかけや教員の指導に対する反応を観察</p>

6 単元の指導計画（4時間の取扱い）

■高等学校学習指導要領第5章特別活動〔ホームルーム活動〕2 内容（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア「自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」

過程	内容	重点	評価方法・評価規準	配当時間
1	「心とからだの健康観察」 ・心とからだの健康観察 ・ストレスへの対処方法	思	行動観察・ワークシート ストレスの仕組みについて学び、自分にできるストレス対処方法について話し合っている	1
2	友達に「あたたかい言葉」をかけよう！ ・「あたたかい言葉」をかけるスキルを身に付ける	知	行動観察 「あたたかい言葉」をかけるスキルを身に付ける	1 本時
3	互いの意見を尊重しながら文化祭に向けて話し合おう ・係分担 ・テーマ決定	思 主	行動観察 前時までに身に付けた対処方法・スキルを生かしている 相手を尊重しながら文化祭の話し合いを行おうとしている	2

7 本時の指導

(1) 本時の目標

友達に「あたたかい言葉」をかけるスキルを身に付ける【知識・技能】

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	
		第1層支援 UDの視点 焦点化【焦】 視覚化【視】 共有化【共】 構造化【構】 居心地の良いクラス【居】 ◆評価	第2層支援 (支援が必要な生徒への配慮)
導入 10分	<p>1 あいさつをする</p> <p>2 本時におけるルールを確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【本時のルール】</p> <p>①肯定する</p> <p>②賛同する</p> <p>③よく聞く</p> </div> <p>3 前時の復習をする</p> <p>4 本時の目標を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>友達に、あたたかい言葉をかけるスキルを身に付ける</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の着席後、注目を促してから説明を始める【焦】 黒板右側にルールを提示し、活動に参加しやすい雰囲気を作る【視】【居】 「心とからだの健康観察」で行ったストレスへの対処方法を思い出させる 前時のまとめ「辛いときには誰かに相談しても良い」に触れ、今回は、相談を受けたり、友達を励ましたりする際に使えるスキルを練習することを説明する 本時の目標を電子黒板に提示する【構】【視】 	<p>生徒F</p> <p>本人の状況に応じて、以下の対応を取る</p> <ul style="list-style-type: none"> 突然発言した場合、ルールの③に触れ、「今は聞く時間です」と伝える 本人が発言する前に、指導者が「3番目に聞くから前の人の発言を聞いていてください」等の指示を出す 本人がルールを守れているときに、肯定的な声掛けを行う

			<p>生徒G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加意欲が見られない場合、早期に声掛けを行う
<p>展開 30分</p>	<p>5 「あたたかい言葉」について理解する (1) 今まで、友達に言われてうれしかった言葉を思い出し、ワークシートに記入する (2) 指導者の説明を聞く</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【あたたかい言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言われるとうれしくなる言葉 ・心があたたかくなる言葉 <p>【つめたい言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言われるといやな気持ちになる言葉 ・心がつめたくなる言葉 </div> <p>6 「あたたかい言葉」をかけるスキルを練習する (1) 指導者の説明を聞く (2) 指導者による「あたたかい言葉」と「つめたい言葉」のモデルを見る (3) モデルを見て、どちらの言葉の、どんなところがよかったかをワークシートにまとめる (4) 「あたたかい言葉」をかけるために、自分が気を付けたいことを考えて、ワークシートに記入する (5) 2人組になり、お互いに「あたたかい言葉」を掛け合うロールプレイを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する ・指導者がいくつか例を示す(例)字がきれいだよね、部活動頑張っているね、掃除が丁寧だね等 ・「あたたかい言葉」についてまとめた内容を電子黒板に提示する 【視】 ・対になる概念として、「つめたい言葉」についても説明を行うが、生徒の反応を観察し、拒否的な反応を示す生徒がいる場合は、具体的な言葉の例は出さず、簡潔な説明に留める ・「あたたかい言葉」をかけるスキルの説明を電子黒板に提示する 【視】 ・どこに注目すべきか説明する「どちらの言葉の、どんなところがよいか考えながら見てください」 【焦】 ・「つめたい言葉」に関しては、生徒の様子を観察し、簡素化する場合もある ・言葉の選び方、言い方、態度によって、相手に与える印象の違いが出ることを伝える 【共】 ・指導者は机間巡視を行い、ロールプレイの様子を観察する ・活動が進んでいないグループに適宜介入する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆評価【知識・技能】 行動観察 ワークシートの記述の分析</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ後、「あたたかい言葉」を言われたときのお互いの気持ちを話し合わせる 【共】 	<p>生徒F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の様子を観察し、落ち着いているようなら肯定的な声掛けを行う ・突然発言した場合は、ルール③に触れ、「次に指名するから、今は、前の人の発言を聞いてください」と指示する ・本人がルールを守れているときに、肯定的な声掛けを行う ・ワークシート記入中、机間巡視を行い、声掛けを行う <p>生徒G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視中に「音楽に詳しいよね」「たくさん本を読んでいるよね」等、指導者がGに対して「あたたかい言葉」をかける ・Gの望ましい行動を具体的な言葉でほめる

終 末 10 分	7 本時の振り返りを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を日常生活にどのように生かすことができるかを考えさせ、ワークシートに記入させる ・次時の文化祭に向けた取り組みにおいて、相手を尊重した言動ができるよう促す 【居】 	生徒F及び 生徒G 可能であれば 発言の機会を 設け、肯定的な 声掛けを行う
	8 あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアになってくれた人に対し、感謝の思いを伝える 【居】 	

【補助資料6】授業で使用したワークシート（C校）

ワークシート

3年 組 番・指名 []

「あたたかい言葉」をかけるスキル

～友達がうれしくなる言葉って？～

学習の流れ

10分

- ・この授業のルールを確認しよう
- ・前の時間の復習をしよう

10分

- ・「あたたかい言葉」について理解しよう

20分

- ・「あたたかい言葉」を練習しよう

10分

- ・まとめ

5 書く 4を見て、どちらの言葉の、どんなところがよかったか、書こう

どちらがよかった？（○を付ける）	あたたかい言葉 ・ つめたい言葉
どんなところがよかった？	

6 書く あたたかい言葉をかけるために、気を付けたことを書こう

7 2人組になり、「あたたかい言葉」を練習しよう

(1) 考える ペアの友達のよいところ、頑張っているところを考えよう

[MEMO] _____ さんのよいところ・頑張っているところ

(2) 練習する 「あたたかい言葉」をかける練習をしよう

8 話し合う 「あたたかい言葉」をかけられたときの気持ちを話し合おう

まとめ

9 書く 今日の授業で習ったことをこれからどのように生かすことができるだろうか。生かすことのできる場面を想像して書いてみよう

※学校や個人が特定されるスライドを除く

1.校内委員会について

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告(概要)
(令和5年3月13日) 別添2

現状・課題

- ① 学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒：小中学校8.8% 高等学校2.2% ⇒ 全ての学級に特別な教育的支援が必要な児童生徒が在籍している可能性
うち、校内委員会で支援が必要と判断：小中学校28.7% 高等学校20.3% ⇒ 校内委員会の機能が十分に発揮されていない
- ② 他校通級は、小学校では約3割、中学校では約2割 ⇒ 児童生徒や保護者の送迎等の負担
高等学校において、通級による指導が必要と判断された生徒が受けられていない実態がある ⇒ 実施体制が不十分
- ③ 障害の程度の重い児童生徒が通常の学級に在籍（就学先決定にあたり本人・保護者の意見を最大限尊重） ⇒ より専門的な支援が必要
- ④ 令和4年9月9日障害者権利委員会の勧告 ⇒ 障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で共に学ぶための環境整備の推進が必要

小中高等学校等

①校内支援体制の充実
⇒ 支援の対象とすべき児童生徒について幅広く把握し、必要な支援を組織的に対応

②通級による指導の充実
⇒ 本人や保護者が仕組みや意義等を理解した上で、指導を受けることが重要
⇒ 児童生徒が慣れた環境で安心して受けられるよう、**自校通級**や**巡回指導**を促進
⇒ 自立活動の意義と指導の基本を改めて周知、研修会等の実施
⇒ 高等学校については、潜在的な対象者数も踏まえた教員定数措置を含めた指導体制等の在り方を検討

※ 弱視、難聴、肢体不自由、病弱・身体虚弱など²在籍者の少ない障害種への対応に差異が生じるこのないよう留意

特別支援学校

③特別支援学校のセンター的機能の充実
⇒ 特別支援教育に関する専門的な知見や経験等を有する特別支援学校からの小中高等学校への支援を充実

④インクルーシブな学校運営モデルの創設
～特別支援学校と小中高等学校のいずれかを一体的に運営～
⇒ 特別支援学校を含めた2校以上で連携し、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が交流及び共同学習を発展的に進める学校をモデル事業として支援
⇒ 知的障害を対象とした通級による指導も同モデルにおいて実現

(文部科学省, 2023)

1.校内委員会について

校内委員会：特別支援教育に関する校内の委員会

各学校においては、**校長のリーダーシップの下、全校的な支援体制を確立し、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒の実態把握や支援方策の検討等を行うため、校内に特別支援教育に関する委員会を設置すること。**

特別支援教育の推進について（通知）（文部科学省、2007）

3

1.校内委員会について

校内委員会とケース会議の違い

	校内委員会	ケース会議
校務上の位置づけ	公式な校内の組織として、校務分掌に位置づけられる	公式に行うことも、非公式に行うこともどちらもあるため、校務分掌に明確には位置づけできない
規模	5～10名程度	2人から可能
メンバー	管理職、特別支援教育コーディネーター、学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー等	学級担任等、実際に指導を行っている者を中心にケースに応じてメンバーを決める
審議内容	特別支援教育に関すること	特別支援教育だけでなく、生活指導上の案件や、児童虐待等に関することを含めることも可能
会議のゴール	校内で子どもの状態や支援内容について共通理解することを目指す	具体的な方策を考え、校内委員会で報告する
メリット	決定事項を学校長にはかることによって、学校組織としての判断となる	<ul style="list-style-type: none">緊急的な開催がしやすい参加者の本音を引き出せる
デメリット	進行が難しい	一部の教員だけで決定されると、周囲の協力が得られなかったり、誤解を招いたりすることがある

特別支援教育のトビラ | 東京書籍 (tokushi-tobira.jp)HPより

1.校内委員会について

校内委員会：特別支援教育に関する校内の委員会

- 校内委員会は、**校長、副校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、教務主任、生徒指導主事、通級による指導の担当教師、特別支援学級担任、養護教諭、対象の児童生徒の学級担任、学年主任、その他の必要と思われるもの**で構成される

1.校内委員会について

■校内委員会の役割

- 児童等の障害による学習上又は生活上の困難の状態及び教育的ニーズの把握
- 教育上特別の支援を必要とする児童等に対する支援内容の検討
(個別の教育支援計画等の作成・活用及び合理的配慮の提供を含む。)
- 教育上特別の支援を必要とする児童等の状態や支援内容の評価
- 障害による困難やそれに対する支援内容に関する判断を専門家チームに求めるかどうかの検討
- 特別支援教育に関する校内研修計画の企画・立案
- 教育上特別の支援を必要とする児童等を早期に発見するための仕組み作り
- 必要に応じて、教育上特別の支援を必要とする児童等の具体的な支援内容を検討するためのケース会議を開催

小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（文部科学省、2004）

6

1.校内委員会について

■校内委員会の役割

- 児童等の障害による学習上又は生活上の困難の状態及び教育的ニーズの把握

小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（文部科学省、2004）

国語の先生
「Aさんは、文章に
スラッシュを入れると
長文でも読める」

数学の先生
「Aさんは、計算なら
間違わずに解けるのに、
文章題が解けない」

校内委員会が担任・教科担任の気づきを集約
「Aさんは、ある程度まとまった文章を読むときに、
スラッシュを入れると読みやすくなる」

7

1.校内委員会について

■校内委員会の役割

○教育上特別の支援を必要とする児童等に対する**支援内容の検討**

高等学校においては、調査結果で著しい困難を示すとされた生徒数の割合2.2%を念頭に置き、支援の対象とすべき生徒について幅広く把握し、必要な支援について検討する



学級の中でできる支援策を十分に検討する

わかりやすい授業の工夫／居心地のよい学級づくり／ICT活用／合理的配慮の提供 等

8

1.校内委員会について

【学習面】

第1・2層で効果が上がらなかった特定の生徒に対し個別の指導

第1層で効果が上がらなかった一部の生徒に授業中の個別の声掛け

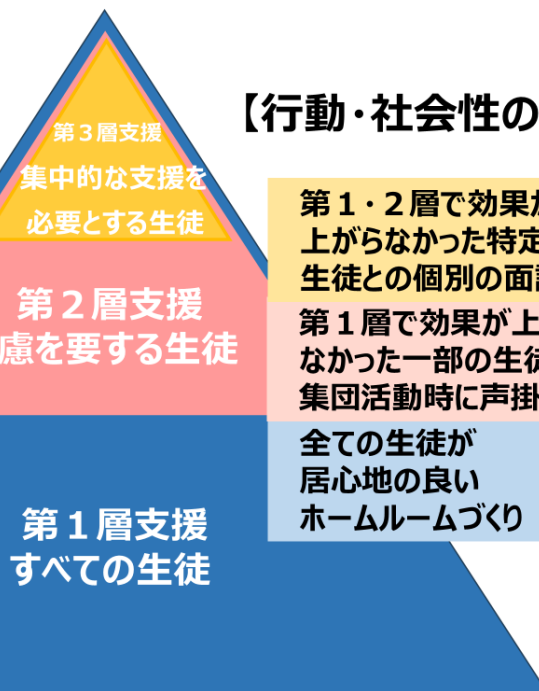
全ての生徒に対し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業

【行動・社会性の面】

第1・2層で効果が上がらなかった特定の生徒との個別の面談

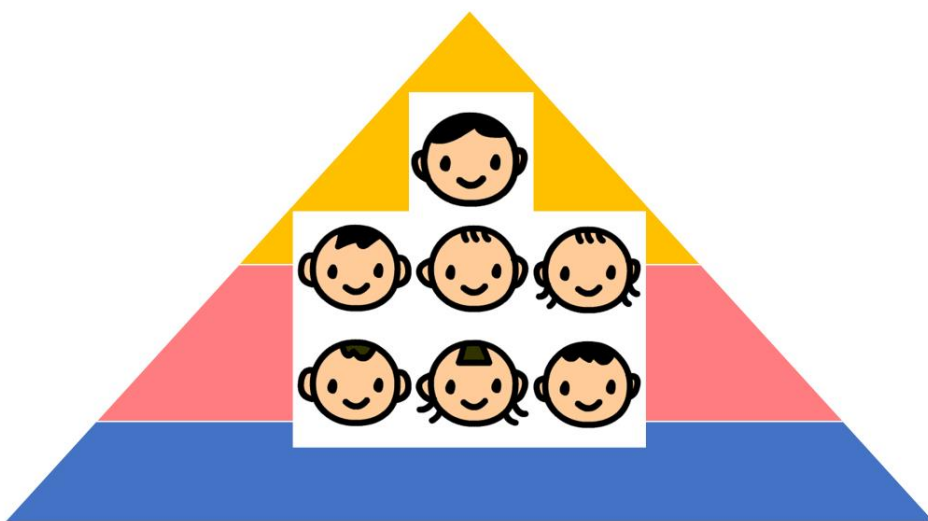
第1層で効果が上がらなかった一部の生徒に集団活動時に声掛け

全ての生徒が居心地の良いホームルームづくり



1.校内委員会について

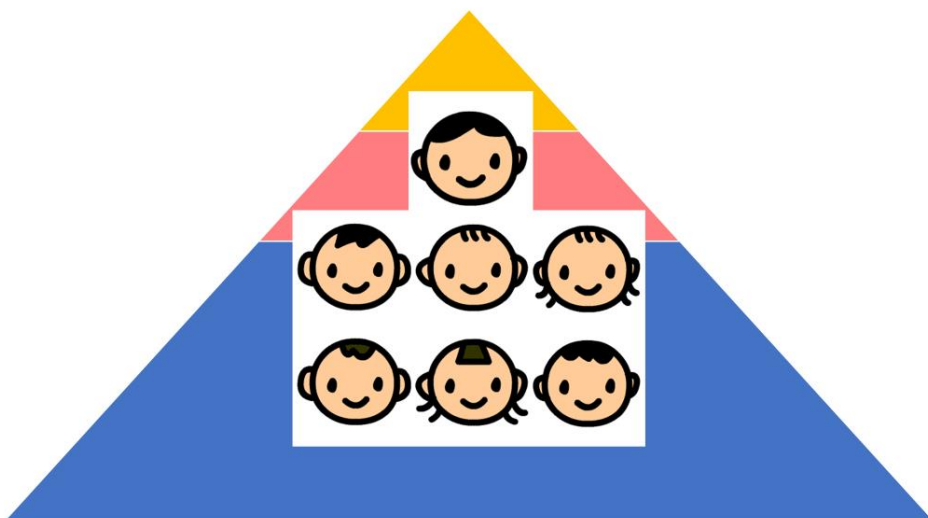
■多層的な支援について



11

1.校内委員会について

■多層的な支援について



第1層支援の充実は、すべての生徒にとって、
生活しやすく、学びやすい環境を提供することにつながる

12

※学校や個人が特定されるスライドを除く

1.「多層的な支援」とは

「多層的な支援システム」(国立特別支援教育総合研究所, 2020)

障害の有無にかかわらず、**学校のすべての子どもたち**が通常の教育カリキュラムに基づいて教育の成果(学習面、行動・社会性の面)を上げるために、**学校全体で多層的に取り組む指導・支援の仕組み**のこと

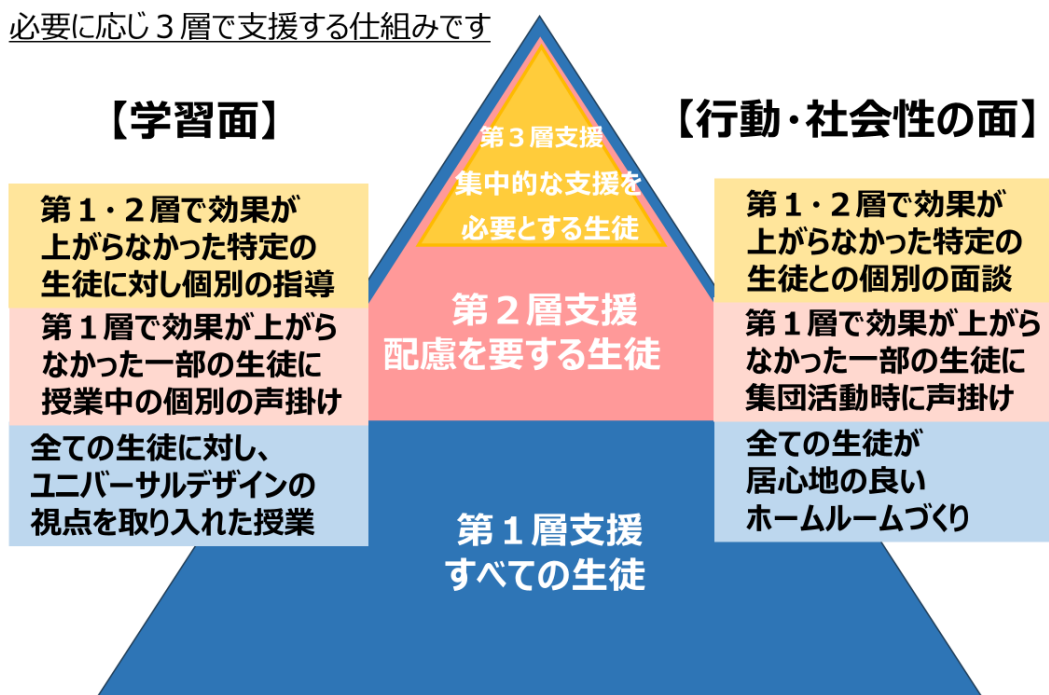
第1層：すべての生徒が対象

第2層：配慮を要する一部の生徒が対象

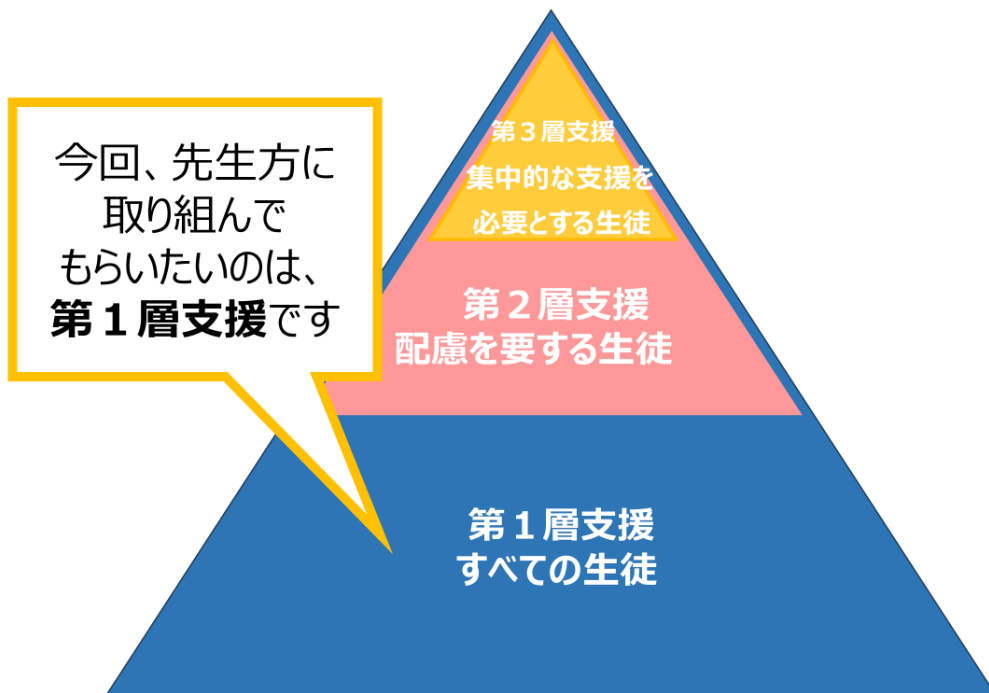
第3層：集中的な支援が必要な生徒が対象

1.「多層的な支援」とは

必要に応じ3層で支援する仕組みです



1.「多層的な支援」とは



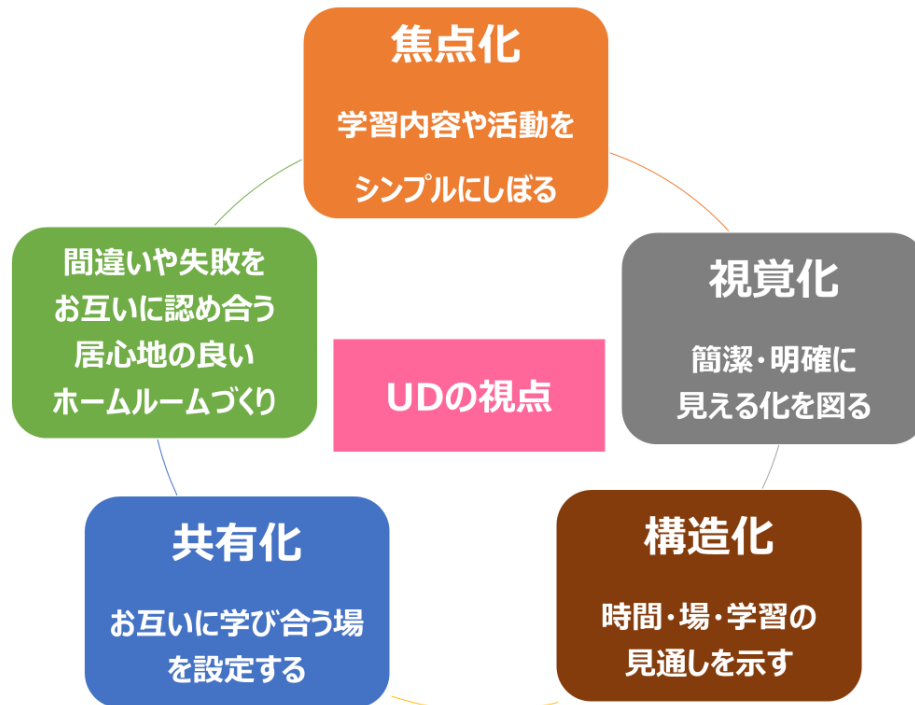
2.第1層支援の充実のために

ユニバーサルデザインの視点を、授業や日常生活に取り入れる

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援とは

- ・特別な支援を必要とする生徒には「ないと困る」支援
- ・どの生徒にも、「あると便利な」、「あると助かる」支援

2.第1層支援の充実のために



2.焦点化の一例

□授業のねらい、活動等をシンプルに！！

- ・「何を学ばせたいか」を検討し、授業のねらいをしぼる
 - ・説明・指示は、**短く、簡潔に、端的に**伝える
「3つ話します。1つ目、……。2つ目、……。3つ目、……。」
 - ・説明・指示は、**生徒の注意を引き付けてから**行う
 - ・「説明を聞く」、「ノートテイクする」等の**学習活動は一つずつ**行う
 - × 「書きながら聞いてください」
 - × 「問題解いている途中だけれど、テスト範囲言いますねー」
 - ・抽象的ではなく、**具体的な表現**で伝える
「ざっくり」「だいたい」「ちょっと」→「全部で〇個」「あと〇分」「あと〇回」
 - ・生徒たちが**探しやすいタイトル**を付けてTeamsに掲載する
- 9月18日の連絡事項
- ①……
 - ②……
 - ③……
 - ④進路希望調査の提出について
- **【10/23ㄨ切】進路希望調査について**

2. 焦点化の一例

□ 授業のねらい、活動等をシンプルに！！

(学習活動)	(UDの視点)
(1) 本時において使用する俳句の表現技法を説明する	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に注目することを促してから説明を始める【焦】 使用する技法は <ul style="list-style-type: none"> ①季語 とする【焦】 ②取り合わせ
(2) ワークシートに従って、俳句を作る(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの手順に従い、個人で俳句を作ることを指示する
(3) 4人グループでお互いの作品を読み合う(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 友達作品を読み、浮かんだ情景を伝えることを指示する【技】

・注目を促す
・学習活動を「見る」ことにしぼる

授業や活動のねらいをしぼる

学習指導案の中に反映した焦点化の例

説明は簡潔・端的・明確に行うことを心掛ける

2. 視覚化の一例

□ 視覚的な情報を加えて、イメージしやすくする！！

- ・電子黒板、タブレットなどのICTを活用する
- ・ロッカーや更衣室の整理の仕方を写真に撮り、どの生徒からも見えるような場所に貼っておく
- ・余分な刺激のないホームルームづくりを検討する
(黒板周りの環境整備、横・後ろの黒板の掲示物、ロッカー、ゴミ箱)
- ・完成品を見せてから作業に取り組ませる
- ・板書、スライドは色を多く使わずに
また、強調表現は赤ではなく、青を使用(色覚多様性への対応)

※詳しくは「カラーユニバーサルデザイン」で検索するか、

岩手県立総合教育センターHP内掲載『教育研究岩手第111号』

「教育相談Q&A 色覚多様性について伝えたいこと-『赤い字は目立たないよ』・『何色に見える? って聞かないで』-」を参照のこと

2.視覚化の一例

□ 視覚的な情報を加えて、イメージしやすくする！！

紫陽花やきのうの
あじさい

「視覚化」を用いた「構造化」

学習課題

「取り合わせ」の手法を用いて
俳句を作ろう

本時の流れ

十 取り合わせについて 十分

二 俳句を作る 十分

三 四人でベスト俳句を作る 十五分

四 全体で発表会をする 五分

五 自分の俳句を推敲する 五分

六 振り返り 五分

「焦点化」を意識し、
シンプルな
「視覚化」

2.視覚化の一例

□ 視覚的に引っ張られそうな情報は削除する

紫陽花やきのうの誠けふの嘘
あじさい

正岡子規

本文に関連のないイラストは入れない
※焦点化ともつながる

紫陽花やきのうの誠けふの嘘
あじさい

正岡子規

意味 昨日は本当だと言ったことが、今日には嘘になってしまふ、まるで色の移ろいやすい紫陽花のように。

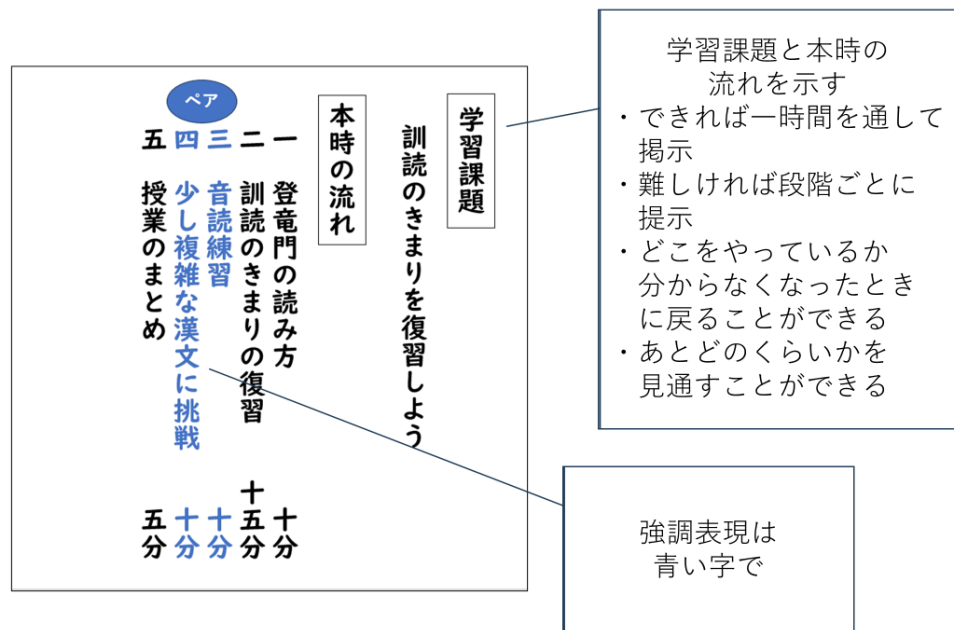
2.構造化の一例

□時間や活動の見通しを示すことで、生徒に安心感をもたせる！！

- ・**時間の構造化**：授業や学校生活の流れを示す工夫
活動に見通しを持たせる、優先順位はこちらで示す、
部活動の予定表を配布する、
- ・**場の構造化**：教室の空間に規則性を持たせる工夫
モノの住所（置き場所）を決める、掲示物、連絡黒板
※どのホームルームに行っても同じ環境だと、更に学校生活への
安心感が高まる
- ・**学習スタイルの構造化**：授業の参加ルールを設定する
板書の工夫、提出物の出し方を決める

2.構造化の一例

□時間や活動の見通しを示すことで、生徒に安心感をもたせる！！



2.共有化の一例

□互いの考えを伝え合ったり確認したりする時間を設ける！！

・**ペア学習／グループ学習**：互いに説明し合い、考えを共有する
互いに話し合うことで、自らの学びを深めると同時に、自分の存在
がホームルームの友達に受容され、認められる雰囲気醸成される



**普段の授業・生活の中に、第1層支援を
意識した取組をお願いします！**

10/7～10/24の期間で先生方が取り組まれた支援・指導についての
アンケート（Forms）を予定しています